

シナイ通信 第2号

平成 15 年 2 月 15 日
シナイモツゴの郷の会
事務局 鹿島台町公民館 (0229-56-2510)

間一髪でシナイモツゴを救出 郷の会の初仕事 - 生袋ため池のバスを全数駆除

山谷町生袋ため池では平成 6 年にシナイモツゴが見つかり、最初に生息確認された桂沢とともに平成 13 年に環境省から旧品井沼周辺ため池群として「日本重要湿地500」に指定されました。しかし、何者かによって密かに放流されたブラックバスが平成 13 年 9 月のバス生息調査で確認されました。宮城県内水面水産試験場によると、放置すればシナイモツゴをはじめメダカやギバチ、キンブナなど全ての小魚が短期間で全滅してしまう恐れがあるということで、侵入したバスを緊急に駆除することになりました。

駆除には地元水利組合の方々、町公民館、県内水面水産試験場が参加協力し、お盆の最中8月14日から排水を開始、8月31日水深50cm以下になったところで地曳網によりバスやその他の魚を一斉に捕獲しました。翌日はエンジンポンプで完全に排水し、残ったバスを全部駆除しました。シナイモツゴ 500 尾とギバチ、メダカ、キンブナは内水面水産試験場や近くの池へ運ばれ、水槽や生簀で一時飼育保護されました。10月30日にため池の水位が満水時の約50%まで回復したため、一時避難していたシナイモツゴなどの魚を放流しました。

今回はバスを全数捕獲し多くのシナイモツゴや絶滅危惧

種のメダカやギバチを救出することができました。このため池では大型バスは14尾と少数でしたが、平成14年生まれの子稚魚が300尾以上捕獲され、まさにバスが爆発的に増加する最中でした。幸い、シナイモツゴなど多くの魚が被害されずに残っていましたが、捕獲バスを解剖するとたくさんの魚が食べられていたことから、今後さらにバスが増えと間違ひなくシナイモツゴは全滅していたでしょう。まさに間一髪で救出に成功したと言えます。

バス駆除では地元水利組合の方々や泥まみれになりながら活躍していただきましたし、8月31日の地曳網にも町内外から駆けつけた100人以上の方々にご協力をいただきました。さらに、鹿島台小学校4年生全員が10月30日に生袋ため池に集合し、救出したシナイモツゴなどの魚を元気に放流してくれました。避難用の池を貸していただいた佐藤様、町公民館や内水面水産試験場などご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

町内の多くのため池ではバスが入り込んでその他の魚は全滅状態になっています。今後もバス駆除によりシナイモツゴを保護し、品井沼のシンボルであるシナイモツゴが住む池を増やして行きましょう。

新春の挨拶 会長 安住 祥

町の天然記念物「シナイモツゴ」の保護と増殖のため、大きな関心とお力添えを戴いております皆様方に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

鹿島台小学校4年生の秋の郡音楽祭のテーマ曲は「シナイモツゴの郷に」であります。これは自動の作詞作曲によるものです。

近年、河川や湖、沼に昔ながらの地域の淡水魚が少なくなってきたと言われております。ブラックバスを主とする「シナイモツゴ」を守り育て、新世代の人々に引き継ぎ、環境に優しい、いきいき安心かしまだいを創造して参りたいと思います。本年も皆様様の熱意とエネルギーをお借りいたします。

秋の見学会(蕪栗沼とメダカの郷)に参加して

大浦 實

その気で行っても結局探せないで戻る人がいるという田尻の手強い蕪栗沼に、幸いにもたどり着けましたが、日中のこととお目当ての鳥類は留守居役の白鳥さんくらいでありました。『2万羽の雁』の朝夕の飛翔・・・伊豆沼で見た古い記憶・・・活気あるさまをイメージしました。

それにしても、5年前に“田んぼが湿地になった”のは、世の中の動きもさりながら、周囲の人々・団体などの連携や協調によって、目的達成に向かえたからだと思います。マコモ植栽など地道な作業により、今ではタコノアシという植物をはじめ昆虫・淡水魚など、水鳥を含めた貴重な動植物が世界的にも注目されるようになった、と教えていただきました。そんなことをひっくり返して、当会としても見習うものはうんとあるな、と思いました。もし今、一部でも品井沼が残っていたなら・・・ないものねだりの恨み節。宮城県レッドデータブック

で絶滅危惧種 類とされる「ゼニタナゴ」を個人で繁殖させている田尻の高橋孝憲さん方を訪問して、イヤ驚きました。好きが高じて専用ハウスと二面の池を自宅周りに作り、メダカの郷として、飼育に力をいれておられました。来年の春には、遠田郡内の希望のあった10小中学校に自然環境教育用としてメダカをプレゼントするといい、ゼニタナゴももっと増やして教材用に提供したい、とのことでした。

一度こわした自然は、元には戻らないといわれているものの、人間の英知・努力によってはなんとかなるんじゃないか、と思わせる蕪栗沼白鳥地区でありましたし、個人でも自然への思いを声高に言わないでも、着々と次世代へ継承していく手立てはあるのだ、と知りました。

宇宙船地球号 人間が他の生物への気配りを忘れ、ひとり生きてはいけないのですが・・・。

研修会 3月15日午後6時～ 鹿島台町公民館

1 魚を育ててきた水田(知られざる水田の機能)

東北区水産研究所 斎藤憲治氏(農学博士)

2 魚を守ってきたため池(シナイモツゴとハスの新知見)

宮城県内水面水産試験場 高橋清孝氏(水産学博士)

平成14年度総会

の開催

時 平成15年3月15日

午後7時30分

場所 鹿島台町公民館

会費納入のお願い

郷の会は会員の会費で運営しています。H15年度(H15年4月～H16年3月)の会費(1,000円)は事務局(会計)へ直接届けるか同封の郵便振替でお願いします。

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。

小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。

月例会のお知らせ

会員相互の情報交換などの場です。お気軽においでください。

時：毎月第2土曜日

午後6時30分